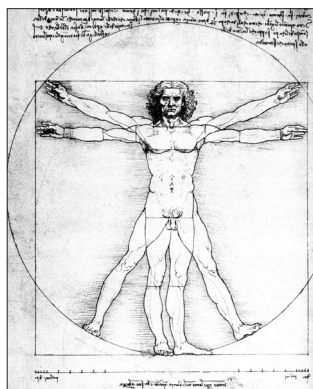


レオナルドの貴重な手稿と描画、全544点を大型図版で完全網羅。



『最後の晩餐』
ミラノ、サンタ・マリア・デル・グラーツィエ修道院付属食堂 蔵
油彩壁画、1495-1497年頃 (図425 本書P425収録)



『ウィトルウィウスの人体』
1490年頃 ヴェネツィア アッカデミア
美術館 蔵 (図230 本書P274収録)

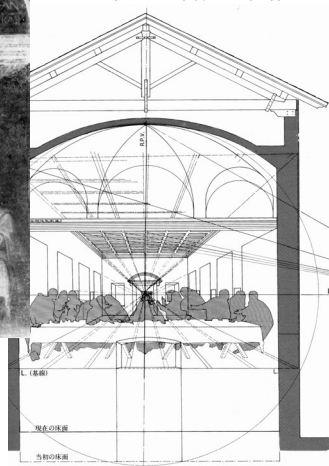


『メディチ家既舎の規範』の最終計画案
パリ、国立文書館 蔵 1487年-90年頃 手稿Bフォリオ38v-39r
(図385 本書P384-385収録)

本書はレオナルドの名画を建築学的な手法を用いて学術的に解析し、彼が「芸術・技術の巨人」であるばかりでなく、その本質は思想家・哲学者であることを紐解いたものです。貴重な資料にして座右の書。学術と芸術の精微な結晶です。

大学、専門学校、高校の研究室及び図書館、図書室に必須の書、また、愛書家や歴史、美術、文学愛好家、建築関係者や哲学、宗教の研究家にとり必携の書です。

食堂の断面との関係を考慮して
解析された透視画の基本的要素
(図428 本書P427収録)



『東方三博士の礼拝(マギの礼拝)』
フィレンツェ ウッフィーツィ美術館 蔵
1478-1480年頃 (図403 本書P402収録)



『最後の晩餐』の使徒のスケッチと大聖堂の構想
1495年頃 ウィンザー手稿 RL12552 ウィンザー城、
王立図書館 蔵 (図104 本書P137収録)

イエスは神の子か？人の子か？・・・

思想家レオナルドが下した哲学的な結論。

画家であり、彫刻家であり、医学者であり、軍事研究者であり、航空機を初めとする革新の機器の開発者でもあるレオナルドは、数々の分野で超人的な才能を発揮しました。それゆえに「技術、芸術分野の巨人」いわゆる「技の巨人」として、今まで認識されていました。しかし本書において、単に「技に優れた職人」の領域を遙かに越える思索の人、思想家「哲学者」としてのレオナルドの本質が明らかになります。

名画『東方の三博士の礼拝』(下図左、本書P402収録)において、幼子イエスと母マリアは「廢墟」に立ち東方の三人の博士の祝福を受けていますが、レオナルドはこの絵を描くにあたり手稿と描画で「廢墟になる前の王宮」(『東方の三博士の礼拝』の背景のための透視画的習作

本書P404~405収録)を再現しています。この描画でわかることは「壊れて廢墟になってしまう前の健全な状態の再現」と「建物が壊れるならどの部分が壊れるか」という建築学的な必然性の追求を、天才ならではの入念さで行っており、更に驚くべきことはレオナルドは、この王宮の主を古代イスラエルの「ダヴィデ王(在位前1010~971年)」と想定し、イエスの出自はダヴィデ王ゆかりの子孫(ユダヤ人)ではないかとの想定の描写が読み取れます。そればかりでなくレオナルドは、かつてのこの王宮の主「ダヴィデ王」の時代の再現を願っていたことが、この絵から窺えます。それは「東方の三博士の礼拝」の絵の廢墟の左側の壊れた梁の両端に、まだ小さい若木が2本描かれていることから「廢墟に芽生える若木」というテーマが考察されます。

ローマ法王庁や教団にとっては、
イエスは「神の子」でなければならない。

中世のキリスト教の抑圧から解放されたルネッサンス期とはいえ、依然として絶大な権力を誇るローマ法王庁にとってイエス・キリストが「人の子」である等は絶対に容認されないと考えていた。ましてやイエスと古代イスラエル(ユダヤ)のダヴィデ王との関連はイエスを「ユダヤ人の子」であると断言していると同然であり、現在より人種的な偏見が激しい当時においては絶対のタブーでした。更にダヴィデ王の時代の再来を願うなどは当時では狂気の沙汰です。ローマ法王庁を頂点とするキリスト教団は「イエスを奇跡の神の子」として演出することで神秘性の維持と情報の独占を図り、世界に絶対権力のキリスト教団を拡大維持してきましたから、それに逆らう考えを持ったり、ましてやそれを公的に発表することは即宗教裁判の対象となり生命の危険すらある当時としては最重要の事柄でした。しかし、レオナルドは敢然と自分の信じる考えを貫き通しました。

レオナルドがガリレオやデカルトに与えた影響と
彼の真の姿を解明するのに時間がかかった理由。

レオナルドの何者も恐れず真実を追究する生き方は、その後の思想家や哲学者に影響し、彼の没後45年後に生まれたガリレオの地動説や同じく75年後に生まれたデカルトの哲学にも大きな影響を与えたことは想像に難くありません。しかしレオナルド自身が思想家であり、哲学者であった事は今まで理解されていませんでした。その要因の一つは、彼が論文や演説で主張するのではなく、絵画などの作品を通じて主張したため、我々が彼の主張を理解するのに時間がかかったことが挙げられます。もう一つの要因としては、彼の作品が余りにも人知を超えた出来栄のために、その表現の技術のみに感嘆して、その中に込められている真意を理解するまで至らなかったせいもあります。しかし本書によりレオナルドが単なる「優れた職人」であると言う先入観の呪縛から解放され、「智の巨人」として真のレオナルド・ダ・ヴィンチ像に目覚めることが出来ました。

本書を契機に彼本来の思想家、哲学者の面からの研究が今後大きく進歩することを願うものです。

(株)学芸図書編集部 編「建築家レオナルド」で広がる知的な世界」より

本書収録の主要手稿・描画の出典先

ロンドン／大英博物館 ●アルンデル手稿 16点

ミラノ／アンブロジーアーナ図書館
●アトランティコ手稿 214点

ウィンザー城／王立図書館 ●描画 68点

ロンドン／ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
●フォースター手稿Ⅱ 4点 ●フォースター手稿Ⅲ 14点

マドリード／国立図書館 ●手稿Ⅰ 17点 ●手稿Ⅱ 14点

ミラノ／トリヴルツィオ図書館
●トリヴルツィオ手稿 16点

パリ／国立文書館 ●手稿A 2点 ●手稿B 31点
●手稿C 1点 ●手稿D 1点 ●手稿F 2点 ●手稿H 21点
●手稿M 20点 ●手稿L 21点 ●手稿M 1点

トリノ／レアール図書館 ●図1点

バーゼル／大学図書館 ●アトランティコ手稿 1点

バイヨンヌ／ボンナ博物館 ●図1点

パリ／ルーブル美術館 ●図3点

ヴェネツィア／アッカデミア美術館 ●図2点

フィレンツェ／国立古文書館 ●図1点

フィレンツェ／ラウレンツィアーノ図書館
●アジュバーナム手稿 1点

フィレンツェ／国立図書館 ●図3点

フィレンツェ／ウッフィーツィ美術館素描室 ●図1点
／他

Architect
LEONARDO
Carlo Pedretti

日本語版〈永久保存愛蔵版〉
建築家レオナルド
カルロ・ペドレッティ 著
日高健一郎／河辺泰宏 訳

I・II巻／総509頁

豪華特製箱入

上製本(246×284×30mm)

定価[本体15,000円＋税]

ISBN4-903685-00-4

お求めは書店または直接当社にお申し込み下さい。

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-35-5 (株)学芸図書1-4「建築家レオナルド」係
TEL(03)5325-2038 FAX(03)5325-5160 郵便振替00180-7-483436